

事業項目 (4) 産業クラスター形成に向けた取り組み

事業項目詳細

健康・医療

健康・医療データ活用等による「生き生き関西“健康・医療”先進地域ビジョン」の実現

主な実施内容

- 健康・医療データの活用促進に向けて、国の補助金を活用し、企業が持つ健診データ等を生かした関経連独自の実証事業を実施。複数企業の実データを用いたデータ統合等の検証を行った。
- 「関西健康・医療創生会議」において、健康・医療データの収集やデータサイエンティスト等の専門人材育成の重要性に関するシンポジウムを開催（10月、11月）し、普及啓発活動を行った。
- 「関西イノベーション国際戦略総合特区」では、関西広域連合と共同で事務局を運営。2018年度に6案件追加され、累計51プロジェクト102案件（グリーン分野を含む）の事業が認定された（第24回計画認定含む）。
- エビデンスに基づく健康関連産業の振興をめざし、健康科学ビジネス推進機構の活動に参画し、未来のヘルスケア産業をテーマとしたシリーズ講演会を開催し、先進事例を紹介した。

航空機

航空機産業への新規参入・マッチング支援

- 関西における航空機産業の活性化に向け、近畿経済産業局が取り組む「関西航空機産業プラットフォーム」の事業やメンバーを拡充し、一体となって取り組むことを近経局・新産業創造研究機構（NIRO）と合意。サプライチェーンの発展や新たな技術課題への対応支援等、新たなプラットフォームの基本構想をとりまとめた。

環境・エネルギー

水素社会実現に向けた機運醸成や関連産業振興の可能性調査

- 水素に関する国の政策をはじめ国内外の最新動向等をテーマに講演会を開催（11月）し、水素社会実現に向けた取り組みについて情報提供した。

AI・IoT／ロボット

AI・IoT活用による新サービス創出と生産性向上支援

- 中堅・中小企業での先端技術の活用促進に向け、先進的・特長的事例を集めた「ICT・IoT・AI等活用事例集～生産性向上・付加価値創出に向けて～」を作成・公開（6月）。関西生産性本部との共催でIoT活用セミナーを開催（1月）し、事例集掲載企業等から先端技術の導入のポイントや課題とその対応策等について情報提供を行った。
- 組込みシステム産業振興機構とともに、IoTビジネスの創出と、事業化までのロールモデルの確立をめざし、IoTワークショップコンテスト「WINK2018」を開催（11月）。

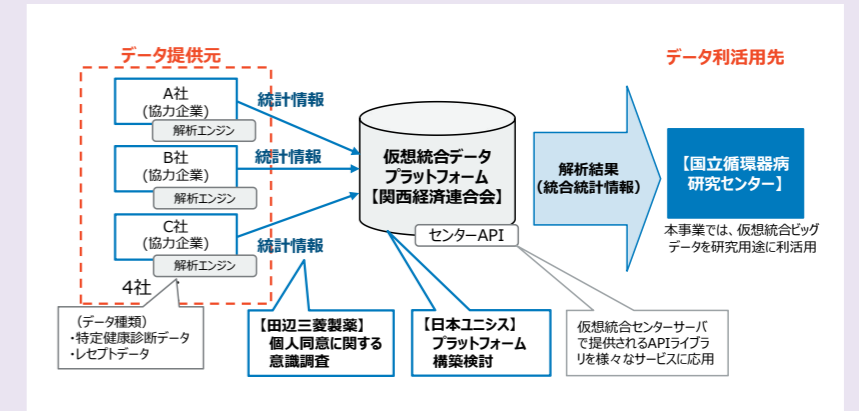
Topics

健康・医療分野におけるビッグデータ利活用に向けた取り組み

国は健康長寿社会の実現に向けて、質の高いヘルスケアサービスを効率的に提供するために必要な健康・医療分野におけるビッグデータ利活用を重点テーマに設定している。そこで当会では、健康・医療専門委員会の下にワーキンググループを組成して検討を重ね、今年度、経済産業省の「産業データ共有促進事業費補助金」事業に、コンソーシアムを形成して応募し、採択された。

具体的には、複数企業の健診・レセプトデータ約4.2万件を各企業内で解析し、その結果である統計データを集約（仮想統合）することで、ビッグデータ化をはかった。これを基に、メタボリックシンドロームの有無および医療機関受診と脳梗塞、心筋梗塞の発症との関連分析といった、研究用途の利活用に関する検証を国立循環器病研究センターが行った。

今後は、国施策の方向性や今年度の検証結果等を踏まえて、将来のライフコースデータを一元的に取り扱うプラットフォームのあり方や、新たな製品・サービス創出等のマネタイズの可能性を検討していく。



健康・医療 実証事業イメージ図

「ICT・IoT・AI等活用促進事例集～生産性向上・付加価値創出に向けて～」を公開

2018年6月、企業への先端技術の導入・活用促進に向け、先進的・特長的事例を集めた事例集を作成し、ウェブ上に公開した。ものづくり・ことづくりの各プロセスにおいて発生するニーズを整理し、各ニーズに即した開発事例を幅広く掲載している。本事例集の特長は、①「〇〇したい」等、ニーズからの検索が可能、②成功ポイントや今後の展開予定等を掲載し、導入イメージをつかむことが可能、③各府県・機関の支援制度等を紹介しており、導入・活用に向けて“一歩踏み出す”企業を後押しする、等である。

事例は随時追加しており、2019年3月現在、計30事例を掲載。製造業に限らず、銀行のコンタクトセンターやベーカーリーショップの会計レジへのAI活用事例等、幅広い業種の事例を紹介している。

今後も、企業規模にとらわれず、幅広い業種・エリアの事例を追加し、内容の充実を図っていく。また、企業事例を紹介する説明会や支援機関による相談会等、一歩進んだ取り組みをめざしていく。

事例集の特長

- 1 「〇〇したい」等、ニーズからの検索が可能。
- 2 事例紹介だけでなく、導入・活用に向けた各機関の支援制度などもあわせて紹介することで、“一歩踏み出す”企業を後押し。
- 3 大企業から中堅・中小企業までの事例を掲載しているのに加え、「ものづくり・ことづくりのプロセス」「企業規模」といったカテゴリーで事例を分類しており、参考事例を見つけやすい。

事例集URL：
<http://www.kankeiren.or.jp/iot/>

【企業事例検索イメージ】

AIを活用し、ベテラン社員の経験や勘に基づくノウハウを形式知化し、見稿作成の自動化を実現
ベテラン社員の経験や勘などのノウハウを形式知化し、短期間で若手に伝承したい

AI画像技術とロボット技術を組み合せ
外観検査を省力化
人手に頼っている外観検査を機械化し、人手不足を解消したい

複数メーカーの製造設備と生産管理システムを繋ぎ、トレーサビリティにかかる時間を短縮
迅速に生産情報を追跡したい

3Dデータを活用した事前検証や自動加工・測定により、高品質・納期短縮・量産対応を実現
金属部品の製造方法（鋳造）を改善したい

👉 クリック → 事例詳細

事業項目 (5) ベンチャーを生み出すエコシステムの形成とイノベーションを支える拠点づくり

事業項目詳細

ベンチャー・エコシステム (うめきた・中之島)

うめきた2期等におけるベンチャー・エコシステム形成に向けた取り組み

けいはんな

けいはんな学研都市のイノベーション拠点機能強化に向けた支援

産業を支える仕組み

実効性あるイノベーション支援体制の構築・大学との連携強化による産業を支える仕組みの実現

主な実施内容

- 梅田周辺に加え、福岡等の関西域外のベンチャー支援拠点等へのヒアリング・視察を通じて、エコシステムに関わる大阪・関西の現状や課題を整理。その結果をふまえ、以下の3点を課題として捉え、解決に向けた取り組みを実施するとともに、次年度の取り組みの方向性を検討した。
 - ①ベンチャー支援拠点・機関間連携
 - 行政や他経済団体との連絡会議・トップ会合にて意見交換及び情報共有を行うとともに、一体的な取り組みを推進していくことを提案
 - ②ベンチャー企業と既存企業との連携
 - 会員企業のイノベーション推進部門との意見交換会を開催(9月)
 - ③テック系ベンチャー創出に向けた機能実現
 - ベンチャー企業のアイデアと大学や企業が持つ技術シーズのマッチング、ビジネス化までの支援機能の実現に向けた検討・調査を実施
- 「うめきた2期みどりとイノベーションの融合拠点形成推進協議会」において、開発事業者とも連携し、中核機能を整理し、その実現に向けた次年度以降の取り組みを示した。
- 政府等に対して、自動運転公道実証実験のためのレギュラトリーサンドボックス制度の早期実現等、けいはんなの都市整備や産業振興について要望を行った。(7月、11月)
- けいはんなが抱える課題を整理し、さらなる発展に向けた今後の取り組みを検討すべく、立地企業・機関等にヒアリングを実施した。
- ものづくりに欠かせない基盤分野の人材育成に向けて、会員企業と大阪ベイエリア金属系新素材コンソーシアムに参画している大学教授らと共同で、「実践的プログラム『金属・材料工学』」を実施(10～11月)し、35名(26社)が修了した。
- 関西の公設試験研究機関・支援機関等が連携し、入口(研究シーズ)から出口(事業化)までを支援する広域的なプラットフォームとしての「関西版フラウンホーファー」を関西広域連合に提案し、合意を得て、「関西広域産業ビジョン」に反映された。
- 産学連携による高度人材育成をテーマに大阪大学と意見交換会を開催(8月、12月)。高度人材育成・確保において共通する課題を整理し、連携して取り組んでいくことを確認した。

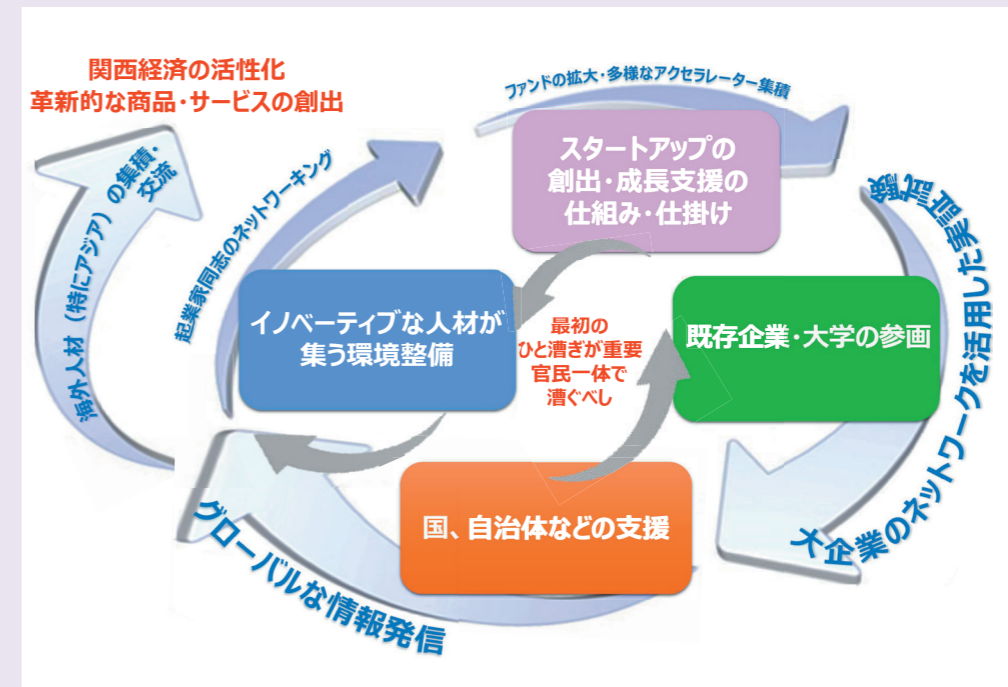
Topics

大阪・関西におけるベンチャー・エコシステムをめぐる動き

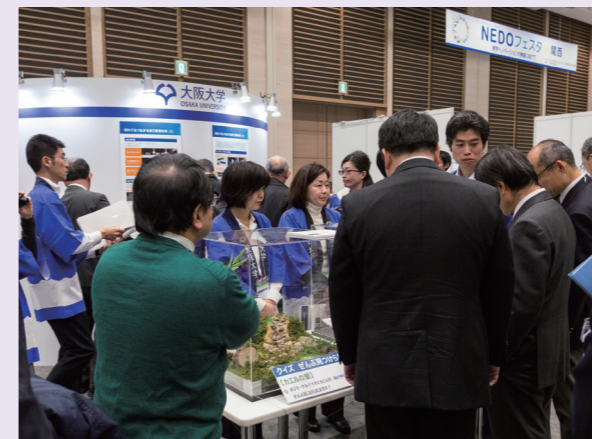
第4次産業革命がもたらす変化の激しい世の中では、新たな価値の創出や社会課題の解決に向けたイノベーションの担い手としてベンチャーの存在感が年々高まっている。世界の先進都市では、ベンチャーが次々と生まれ、スタートアップ企業へ成長し、既存プレーヤーとともにイノベーションを連続的に創出する環境が持続的に発展するベンチャー・エコシステムの形成が進んでいる。

関西においても、行政機関や民間企業がスタートアップ支援のプログラムや資金を提供したり、大学が学生向け起業家教育や研究成果の社会実装を推進する等、多様なベンチャー支援が展開されている。大阪イノベーションハブをはじめ、京都市サーチパーク、神戸医療産業都市、関西文化学術研究都市等のイノベーション拠点に起業家や投資家が集まり、ベンチャー・エコシステムが形成されつつあるものの、東京や世界の先進都市と比べると十分にポテンシャルを発揮しているとは言い難い。

このような中で、2025年に開催される大阪・関西万博は関西に世界の関心が集まる好機である。これを生かし、人材・投資の一層の呼び込みを進めるべく行政・経済団体の取り組みを結集し、関西のベンチャー・エコシステムの充実および発信強化を進めていく。また、2024年にまちびらきが予定されているうめきた2期を関西のイノベーションの中核拠点とすべく、必要な機能の実現と実装に取り組んでいく。



大阪・関西がめざすベンチャー・エコシステムの機能要件 イメージ



「イノベーションストリーム KANSAI」大学・研究機関による新技術の展示



「Keihanna Venture Championship」けいはんなにおけるピッチイベント